

2005 年度卒園式前日に届いたお手紙です。

ちょっと遠い地域から、一番上のお子さんをなかのに入園させ、三年間を送られた、お母様からのお手紙です。

早いもので、息子のなかの幼稚園での園生活も終わりを迎えようとしています。

思えば3年前、当初は自宅近くの幼稚園でいいか…などと思いつつも、色々な幼稚園を見てまわったのですがなかなか決心がつかず、知人の話と風の噂を聞いて見学したなかの幼稚園にすっかり感激したものの、やはり自宅からは距離があるかな…と迷った挙句の入園でした。

それからの息子の園生活は、おそらく人生で一番楽しく、純粹で、充実した日々だったに違いありません。先日のお別れ会の折に、他のお母さんが言っていた言葉：『まず子供が一番、次に親、先生の都合が最後！という環境の中でどれだけ子供たちが幸せだったことでしょうか。時には悩み、苦しい事もあったなかで、仲間と共に成長することの素晴らしさを、親子共々感じさせていたのだと思います。そしてバス通学だった我が家にとつて、とても有難かったのが、担任の先生方が書いてくださった沢山の学級だよりでした。』

このおてがみの多さは、他の園の知人も驚く程で、本当に凄い事だと思います。日頃なかなか園に向けなかつた私にとつて、普段どんなことをやっているのか、ああ…この子はこんな一面があるんだな、など、手に取るようにわかることが出来、とても感謝しています。先生方の労力を考えると、敬服するばかりです。本当にありがとうございます。

今、息子は毎日のようにカレンダーを数えながら、『あ、もうあと 日しか幼稚園に行けないっ！』とため息をついています。そして私は、息子と園長先生からの”お弁当感謝状”に思わず涙しております。

出合いがあれば別れもあり…親子共々、新しい環境に向かって前向きに進んでいきたいと思えます。そして息子にとつて”なかの幼稚園”は心のふるさとのような存在になつていくのでは…と思つていきます。

最後に先生方、私たちにとつて本当に素敵な時間をありがとうございました。